

通し番号	5046
------	------

分類番号	R02-16-12-10
------	--------------

水稲中生品種‘てんこもり’の施肥体系	
[要約] 水稲中生品種‘てんこもり’の施肥は、従来の中生品種‘さとじまん’と比較して、追肥を2回に増やす、あるいは基肥を多くし、かつ追肥の施用時期を5日程度早めることにより、収量及び品質向上が図れる。	
神奈川県農業技術センター・生産技術部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

水稲奨励品種‘さとじまん’の後継品種として有望である‘てんこもり’について、収量及び品質向上を図るため、品種特性に合った施肥体系を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 慣行区と比較して、追肥を2回に増やす、あるいは基肥の窒素成分を約30%多くし、追肥の施用時期を5日程度早めることにより、収量・品質が向上する（表3）。
- 2 ‘てんこもり’は‘さとじまん’と比較して、出穂期が3日、成熟期が2日各々早く、穂数が多い（表2）。
- 3 ‘てんこもり’は‘さとじまん’と比較して、玄米重は同程度で、外観品質は高いが登熟歩合は低い（表3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 ‘てんこもり’の栽培ごよみの作成に活用する。
- 2 ‘てんこもり’の玄米重は追肥2回で収量、品質が向上するが、倒伏しにくい特性や労力面を考慮すると、基肥を多くする方が現実的である。

[具体的データ]

表1 試験区別施肥量

試験区	基 肥	追 肥	合 計
慣行区	3.0 : 4.5 : 4.5	3.0 : 0.0 : 3.0 (出穂15日前)	6.0 : 4.5 : 7.5
追肥2回区	3.0 : 4.5 : 4.5	2.0 : 0.0 : 2.0 + 2.0 : 0.0 : 2.0 (出穂25日前) + (出穂15日前)	7.0 : 4.5 : 8.5
基肥増区	3.0 : 6.0 : 6.0	3.0 : 0.0 : 3.0 (出穂20日前)	7.0 : 6.0 : 9.0
基肥増区	3.0 : 6.0 : 6.0	3.0 : 0.0 : 3.0 (出穂25日前)	7.0 : 6.0 : 9.0
緩効肥料区 ^z	3.0 : 4.5 : 4.5	(4.2 : 0.0 : 0.0)	7.2 : 8.0 : 7.0
基肥増・追肥増区	4.0 : 6.0 : 6.0	4.0 : 0.0 : 4.0 (出穂15日前)	8.0 : 6.0 : 10.0
対照区(さとじまん)	3.0 : 4.5 : 4.5	3.0 : 0.0 : 3.0 (出穂15日前)	6.0 : 4.5 : 7.5

z: 緩効肥料の窒素成分、速効性: 55%、LPS80: 45%

表2 生育調査結果

試験区	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	収穫日 (月.日)	稈長 ^z (cm)	穂長 ^z (cm)	穂数 ^z (本/m ²)	倒伏 ^{yx} 程度
慣行区	8.14	9.28	9.28	76.1	20.1	413	0.0
追肥2回区	8.14	9.28	9.28	79.4	20.7	441	0.0
基肥増区	8.14	9.28	9.28	78.5	20.5	363	0.0
基肥増区	8.14	9.28	9.28	78.9	19.5	356	0.0
緩効肥料区	8.14	9.28	9.28	78.5	20.5	363	0.0
基肥増・追肥増区	8.14	9.28	9.28	77.2	19.3	361	0.0
対照区(さとじまん)	8.17	9.30	9.30	75.8	20.7	300	0.0

z: 2020年9月17日に調査。y: 8月29日に調査。x: 0(無)~5(甚)の観察調査。

表3 収量・品質査結果

試験区	精粳重 ^z (kg/a)	玄米重 ^{zyx} (kg/a)	玄米重比率		玄米 ^{zx} 千粒重 (g)	玄米 ^w 外観 品質	登熟 ^y 歩合	整粒 ^u 歩合	タンパク ^t 含有率
			対慣 行区	対対 照区					
慣行区	59.8	46.9	100	101	20.7	5.5	77.9	64.6	7.5
追肥2回区	69.4	53.6	114	115	19.8	6.5	66.9	56.3	7.6
基肥増区	64.5	49.3	105	106	20.3	5.5	69.2	60.4	7.6
基肥増区	63.1	48.5	103	104	19.5	5.0	72.3	60.5	7.3
緩効肥料区	63.5	48.7	104	105	19.6	5.0	70.1	60.6	7.6
基肥増・追肥増区	62.3	48.5	103	104	20.0	6.5	69.4	60.2	7.6
対照区(さとじまん)	62.4	46.5	99	100	21.9	7.0	78.1	73.3	7.4

z: 2020年10月7日から10月23日に調査。y: グレーダーは1.8mm篩を使用。x: 水分含有率を15%に補正した値。w: 観察調査1(上上)~9(下下)。v: 1.8mm以上の粒数/全粒数。u: 穀粒判別器(ケット社製、RN-700)を使用。t: 成分分析計(静岡製機、MT-3500P)を使用。

[資料名] 令和2年度試験研究成績書(普通作)

[研究課題名] 水稻奨励品種決定調査事業

[研究期間] 2019(令和元)~2020(令和2)年度

[研究者担当名] 岡野英明、三好理、瀧口武

[協力・分担関係]